



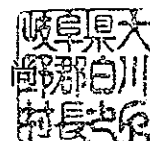
白 第 2 6 8 4 号

平成20年10月20日

国土交通省道路局長 様

岐阜県大野郡白川村鳩谷517番地

白 川 村 長 谷 口



今後の道路行政についての意見・提案の提出について

平成20年9月19日付け国道企第37号で依頼のありました標記の件につきまして、

別紙のとおり提出いたしますのでお願いします。

今後の道路行政についての意見・提案

様式①

① 道路行政全般について改善すべき点、要望や提案など

岐阜県白川村

○高速道路の利用促進と、住民の生活環境(通勤・通学・通院)の向上を図るため「高速道路料金」の大幅な引き下げを要望する。

○公共交通機関が発達している都市部とは違い、道路交通しか公共交通手段のない村にとって道路への依存度は高く、重要な生活基盤となっている。道路事業推進には交通量や費用対効果だけでなく地域の実情等を考慮した対応を要望する。

②-1 地域の現状と抱える課題

岐阜県白川村

○現状

東海北陸自動車が全線開通し、約三ヶ月が経過した飛騨清見 IC ～白川郷 IC 間上下線の日平均交通量が約 9 千台と予想の 3 倍の交通量となっている。村を訪れる観光客も対前年比で約 5 割増となっており、観光関連産業を中心として大いに活性化している。また、富山県内や岐阜方面でも観光施設、イベントにおいて観光客数が増加するなど広域観光にも大きな効果が現れている。一方、村民の生活面においては高山市への所用時間が大幅に短縮され高校生のバス通学を始め公共交通機関による通勤、通院が可能となり生活環境が向上している。

○課題

白鳥 IC ～小矢部 JCT 間は長短多くのトンネル、橋梁で構成される典型的な山岳道路区間である。暫定 2 車線の対面通行ということから、観光シーズンの渋滞や重大な交通事故も懸念されている。今後は経済発展する北東アジアとの経済交流の活性化に伴い中京、北陸圏域を結ぶ産業道路として更なる交通量の増加が予想される。

また、村の生活生命線となっている国道 156 号は今後も東海北陸自動車道の代替路線として、大型貨物や危険車両の増加が予想される。しかし、一部区間においては、トンネル内の高さや幅員不足及び線形の悪さから大型車両のすれ違い困難による渋滞や交通事故等の発生が懸念されている。

②－２ 地域の目指すべき将来像

岐阜県白川村

東海北陸自動車道の全線開通は当村にとっても新しい時代の幕開けとして、観光産業の振興や企業誘致の推進、また、生活環境の向上等、様々な分野において大きな期待を寄せており、同時に中京、北陸圏域の経済活性化や広域観光交流の促進が図られている。こうした中で、当自動車道の重要性を鑑み安全性と利便性の向上の観点から、全線において早期の四車線化が必要とされる。また、東海北陸自動車道と並行して走る国道１５６号線の担う役目も大きく、これが整備促進されることは住民の安全性と快適性の確保を図り、生活圏の拡大や地域の産業、経済の活性化が期待される。